

お客様へ感謝を込めて

サンキュー

3 9 レポート



2012年  
1月

1000円からの資産運用

ありがとう投信

Arigato Asset Management Inc.

「新年あけましておめでとうございます」

いつもありがとうファンドをご愛顧いただき、まことにありがとうございます。文字通り『激動』の1年だった2011年が過ぎ、色々な意味で比較のおだやかに新しい年はスタートしたようですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、財団法人日本漢字能力検定協会が公募した昨年2011年の『今年の漢字』は「絆」という字でした。私たちにとっても、2011年は、多くのお客様と私たちをつないでいる「絆」を実感することができた年でした。たとえば震災時には、「大丈夫ですか？」というお問い合わせや励ましのお言葉を、驚くほど早く、いくつもいただきました。

当時は基準価額が急落して多大なご心配・ご迷惑をおかけしてしまいましたが、いわゆるパニック売りは全く出ずに逆に買い注文を数多くいただきました。このことも、私たちがこれまで発信してきたメッセージとお客様の相場観とが基本的に同じ考え方で繋がっていることを感じさせてくれましたし、何よりの励みにもなりました。

また、昨年末12月の月次レポートでは〈ぜひ買い増してください〉と書きました。私たちがご迷惑をおかけしている張本人なのですから、「ふざけるな」と怒ってこられるお客様がもしかしたらいらっしゃるかも知れないとも思いましたが、全てのお客様にとっての最善策は『買い増し』だと信じてメッセージを発信したのです。

結果として、怒ってこられたお客様はゼロでした。そして、今回も呼応するように買い増しをしてくださった方々が何人もいらっしゃいました。「前向きに検討したけれども資金繰りの都合で今回は見送る」とわざわざ言ってくださった方もいらっしゃいました。

目先の値動きにバタバタしない『長期投資』であることと、販売会社の理論を排した『直販』であること、私たちのこの大きな二本の柱は変わりません。これからもこの柱を守っていくことでお客様とのつながりをより深め、私たちならではの「近さ」を感じていただけるような活動を進めていく所存です。

『絆』の大切さは一過性の話ではありませんから、今年も引き続き絆を感じていただけるよう、文書やHPの動画などの活用を広げていきますのでぜひご覧いただきたいですし、全国で色々な形のセミナーも開催してまいりますので、ぜひ足をお運びいただきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

代表取締役

CIO（最高投資責任者）

岡 大



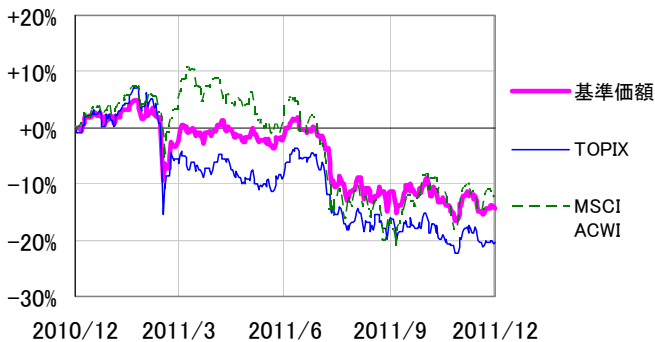
ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 (社)投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

## 【 ありがとうファンドの運用状況等 】

## ＜直近の運用状況など＞

この1年のありがとうファンドの基準価額の推移は下のグラフのとおりです。(ご参考のためにTOPIX:日本株とMSCI ACWI:全世界株<円ベース>の動きも載せています。)



3月の大震災前までは全般に比較的堅調な推移でしたが震災時に急落、一旦は戻したものの夏以降には欧州の債務問題や世界景気の先行き懸念などから市場が弱含み、その影響から再度下落してしまいました。ご迷惑ご心配をおかけしまして本当に申し訳ありません。

ただ、震災時の日本株中心の下落および夏以降の海外株中心の下落の各局面では、分散投資やキャッシュポジションのコントロール、組入れファンドの優秀さなどが功を奏し、ありがとうファンドの『下げに強い』特質を発揮することができました。

## ＜今年の各国の経済成長見通し＞

さて、ここで下の表をご覧ください。

IMF世界経済見通し(実質成長率、%)		
	2011年	2012年
世界	+4.0	+4.0
先進国	+1.6	+1.9
日本	▲0.5	+2.3
米国	+1.5	+1.8
ユーロ圏	+1.6	+1.1
ドイツ	+2.7	+1.3
フランス	+1.7	+1.4
イギリス	+1.1	+1.6
新興国	+6.4	+6.1
ブラジル	+3.8	+3.6
ロシア	+4.3	+4.1
インド	+7.8	+7.5
中国	+9.5	+9.0

これはIMF(国際通貨基金)による昨年と今年の世界経済見通しです。もちろん、この数字が絶対と言う訳ではありませんが、およその傾向は見ていただけたと思います。

震災という特殊要因があるにせよ、この2年の成長率対比で今年の方が顕著に上昇する主要国は日本ぐらいしかありません。その意味でも、私たちが注力してきた日本株の投資比率の高さが、今年は大きく貢献してくれる年になるかも知れません。

新興国は相変わらず全般に絶対値は高いですが、これらの国については元もとの期待値も高いので、株価推移という意味で言うと、減速感の方に強く反応することになる可能性もありそうです。

その他では、英米両国の堅調さが目を引きます。特に米国の堅調さは、この数字を上回るものにもなり得ると私たちは考えており、これを享受するためとファンド内での資産の分散を進めるために、米国株主体のファンドを12月から組み入れ対象として追加しました。

## ＜キャピタルの新規組み入れ＞

新しく組み入れたのは米キャピタル社のファンドです。詳しくは、同封の別紙をご覧くださいのですが、この組み入れにより、米国を代表する長期投資ファンドの運用を、ありがとうファンドに取り込めることになりました。

これからはばらばら、「どこの国でもどんな企業でも成長する」というバブルのような時代ではなく、良いものと悪いものが厳しく峻別される時代になります。こうした環境下では、『より有利と考えられる資産クラスを選択する』、その資産への投資は『信頼できるファンドを通して信頼できる企業にのみ』、という二段構えのありがとうファンドの特長が生きてくるものと期待しています。

## ＜政治頼みではなく率先垂範で＞

足下は、日本にしてもヨーロッパにしても、政治に対して「しっかりやってくれ！」と言いたくなるような状況ですが、そろそろ『政治の動き待ち』から脱却し、投資先の企業の優秀さを信じてどんどん行動していく年にしようではありませんか。

「あそこで行動して良かった」と思っていただけける年になるよう、私たちも頑張ってまいります。

岡 大